

安心な教育環境を構築するために、小学校全学年における35人学級をかならず実現させるとともに、高取小学校の大規模改修をはじめとした、子どもたちの教育環境の向上に努めていきます。

また、子育て、子育てを支えていくためには、働きながら、安心して子どもを産み育てることができ、環境を整えていくことが大切であり、多種多様な働き方に合わせた子育て環境の整備をより一層加速し、待機児童ゼロの実現をめざします。

さらに、若い世代が高浜市のために何かしたいという想いを具現化できるよう、既存の市民算俸事業を若者のチャレンジを応援できる仕組みへと見直ししていきます。

本市の特徴でもある県内トップレベルの外国人比率の状況を踏まえ、外国人の方にも住みやすく、暮らしやすい、多文化共生のやさしいまちづくりを推進します。

そして、市民における大切なまちの資産であり、情報の発信源であるかわら美術館や図書館については、市民の皆さんが求めるそれぞれの機能に着目し、暮らしや活動を支えるもの、より身近なものとして、高浜らしさを踏まえて、今の形態にとらわれず、そのあり方を検討するとともに、実現を図ります。

### まちづくりを支える社会基盤づくり

新型コロナウイルス感染症は社会経済に非常に大きなダメージを与えており、市民生活の基盤である産業の安定が危ぶまれています。そのため、新型コロナウイルス感染症の終

息後、アフターコロナを見据え、社会経済の活性化に取り組んでいきたいと考えております。

そのため、引き続き新たな雇を生み出す工業用地の整備や企業誘致などといった地域経済の活性化に積極的に取り組んでいくとともに、新しい労働のカタチとして、身体や精神に障がいのある方が、高齢化している農業現場での貴重な働き手として社会参画し、自信や生きがいの創出、生活の質の向上につながるよう農福連携を推進してまいります。

また、私たちの日常生活に脅威を与えるのは新型コロナウイルス感染症だけではなくありません。近年では、線状降水帯の発生など局地的集中豪雨などをもたらす自然災害も全国各地で多発しております。そうした水害への対応として八幡町・新田町の雨水排水対策の取組みを推進し、安全・安心への強化を図ってまいります。

加えて、交通基盤の整備、渋滞対策事業として、衣浦大橋のトラス橋の架け替えの早期実施をめざし、引き続き、関係市町とともに愛知県への働きかけを行ってまいります。

そして、新型コロナウイルス感染症により影響を受けている地域経済の回復・活性化と地元企業の成長を支えていくとともに、サービスの向上や雇用環境の適正化を図り、かつ公共事業の透明性を一層高めていけるよう検討してまいります。

### だれもが安心して暮らせるまちづくり

現在においては、何よりも新型コロナウイルス感染症対策が最重要課

題であります。感染拡大や重症化を防ぎ、市民の皆さんの命を守るために、ワクチン接種の早期実施を最優先事項として、迅速かつ着実に取り組んでいきます。

また、コロナ禍においても災害はいつ起こるかわかりません。災害が発生した際の個々の避難行動計画「マイ・タイムライン」の普及やコロナ時代に対応した避難所運営訓練、企業との連携強化、地域人材の育成など、自ら守る、地域で守る防災体制の構築を推進してまいります。

障がいのある人もない人も安心して生活できる社会の実現をめざし、手話は言語であることを明確にするとともに、手話の普及啓発や施策推進に努めることを目的とした手話言語条例を制定し、手話がどこでも自由に使える地域社会をめざします。

超高齢化社会を迎えるにあたり、地域ではますます高齢者が増加しています。高齢者の方も引き続き、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、認知症サポート医の資格を持つ地域のかかりつけ医と連携を図り、認知症の早期発見ならびに早期治療につなげることができ、る仕組みを整備していきます。

また、お子さんの発達を支える保育・療育・教育・福祉サービスの各分野において、発達支援情報の連携強化を進め、ライフステージが変わったとしても、途切れることなく、発達支援情報をつなげていくことにより、安心して暮らすことができるように努めていきます。

### おわりに

わたしのまちづくりの根幹、わたしがつないでいきたいまちづくりへの想いは、これまで、「私のまちからも変わることもなく」「私のまち高浜市は」と一人称で語れるような「まち」にしたいという想いです。先に開催されました東京パラリンピックの聖火リレーのコンセプトを皆さんご存じでしょうか。

「Share Your Light/あなたは、きっと、誰かの光だ。」です。

そこには、聖火リレーを通じて、多様な、そして社会の中で誰かの希望や支えになっている光（人）が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としようという思いが込められています。まさにこれからわたしたちがめざしていきたいまちの姿・思いと同じであります。

たかほまの子どもたちが、ともに声を出し合い、ともに考え、助け合い、仲間をつくり、知恵を出し合い、「まち」とともに成長していく。そして、身近で子どもたちをあたたくく見守り、サポートをしてくださる地域の皆さんの姿が垣間見える、幸せなまち「大家族たかほま」をこれからもつないでいくため、わたしは今一度、市民の皆さんと一っしょに歩みを進めていきます。

これらの実行には市民の皆さんのより一層のご支援・ご協力なくしては、成し得ることはできません。今後ともより一層のご指導・ご鞭撻を賜ることをお願い申し上げます。